

果然悲壯の氣漲る

火の消えたやうな！

新京銀座の商店一齊休業



三月上旬ころ

細目交渉漸く進捗

（東京函報）本年第三次北條鐵道局長とカズロフスキー代表との間に行はれたが同日九日午後四時より外務省で其の會見が午後十一時半散會まで約七時間餘に亘り主として前四より懸案となつてゐる物價決定並に契約不履行の點に

各人思ひくの妙技

けふのスケート大會盛況

戸外デパートの敷設をおこなふスケ
ット大會は萬國版権を認められ
シラッド、スウィー、カレール、
二十日午前十時から開演、野村
萬藏社會主義の講演を辭、神
崎鐵道局長の挨拶より、直ちに
越前縣長、身をまかせたような烈
風をうけて、思ひ通りにフキ
ユアツに、スビ思ひの技藝

一枚現れながら、使用者は一
古人にして、特別警察員より
逮捕され、刑罰を受けるが、該談
人の言に依れば、蒙古奥地で
拾得したものであると云つて
ある、尙ほ偽造開帳は極めて
粗悪なもので、毛筆で題名と
墨を打つたもので、一見して偽
造なる事を判別し得るもの
である

氏は極めて謙遜のうちに無
き感懐を發揮して、開帳を女
關史、紅、油の繪、と、最良
のサリシニ和氣屋、で、
の品に留居居民館の發賣で
太氏の萬歳、また流木太氏の
日十時官民の周を三時
で同七時過ぎ、感懐に散會
した

推薦會も満場一致で

本館に進むに一決、之を推薦
つた

見送て大賑

送別會盛況

參會者三百名

二十日午後十時國列車で家族
同僚赴任の途に上つたが、ホ
ムレは日滿官吏の見送り人で無
数であつた。

九日午後十時より歸郷山田
行士の手により試験飛行を
した。頗る好調に任つた。
れで海州國の雄飛に必ずす。
試験飛行機は十臺になつたわ
である。

十分から記念公會堂で開演
 参會者約三百名に上る盛況

たふればこれに對し荒木

照明には風心
保安事務視察から歸つ、

加藤新京寿保安主任は四日間
の日程で安東奉天の保安事務
視察で出張中のところ十九日

正をさしたいと、原
館の女中さんのサ
全満第一と新紙を

至れり盡せりて且つ又説くも當局の指示に基きホール
の照明は常に明くドアを開
け一歩踏み込むと自然と

九日目の勝負

[illegible]

上季松
上手授け
寄倒し
男女川

(東)
野の星
富嶽山
土州山
流雲峯
巖界甲
雙井乙
大出羽

(西)
加古川
越前山
竹園石
笠岡山
吉原山
田子山
銀鏡岩
九州川

鷹見物御拵合戦
七、四〇(傳説大坂より)
和歌山の傳説智町濱の宮
一ヨコノ
中川荒太郎
奥山松島祐吉
二本車
和歌山縣牟本町
北山村

大双海
邱華光
川山山

新海 武蔵山 清水川
松駒山 男女川 玉錦

大槌(六)林不取作
市川八百蔵
外伴雲音樂等
八、三〇
時義ニユース
(東京より)

三〇 (午後の部) 無濟市況 (東京より)

[illegible]

一、四〇 (東京及大連より)
一、四〇 (東京より)

けふの氣溫
最低零下十五度三(午前六時)
午前十一時零下一度五

康徳春陽の葉

室内を飾る家庭百貨陳列

●家具裝飾部

カレン
タシ
ンセ
ン
デ
ー
ブル
ツ
ウ
ト
本
箱
飾
物

通橋本日

洋川品

九七三
二六三
一三三

話電



第一卷

10



英國製造高級煙草

フェデラル

コルコロサ



日本一 おたふくわた

!! 表代の



白きりまし
酔心地よし

力の源泉！
純良清酒
昭光
第一庄 廣川

古文

電話 317

お店のお顔を華やかに飾り、表情にこそ華やかさを演出していただくのが、本日のテーマです。

看板装飾は



◀ 目 録 ▶

案 創	告 廣
作 製	板 看
修 装	文 外
案 文	案 内
貨 雜	用 傳
談 相	傳 宣
	替 告

陽 社

日 本 中 心 丁 二 町
一 番 一 号

新京出張所
三番三番三番

新京 吉野町三丁目
甘栗太郎
電話二八八七番


 甘栗
 栗 羊 栗
 高 級 栗 實
 小包便として
 甘栗を内地送るの
 要法を教えます



 甘栗
 栗 羊 糞
 高 級 果 實
 小包便として
 甘栗を内地送るの
 要法を教えます


